

車いす介助ボランティアに参加して感じたこと

平田一正(登録会員)



前列右側が筆者

6年前から8月6日に行われる平和記念式典や障がい者向けコンサートでの車いす介助ボランティアに参加しています。

平和記念式典では、要人警護の目的で道路が封鎖されるために、参加者は約200mほどを徒歩で移動する必要があり、広島市が準備する100台の車いすで会場までの移動を介助します。

高齢で歩行が大変そうに見えても、慰霊碑まで自分の足で進むことに強い思いを持つ参拝者がおられることを知ったり、中学生や高校

生の参加者が意外に多く頼もしく思えたりと、参加するまではまったく想像しなかったことがたくさんあります。毎年、参加するたびに貴重な体験となっています。

また、この活動を通して、車いすでの移動は思った以上に負担の大きなものであることを感じました。一般の歩道中には段差に加えて左右に傾斜している場所も多く、直進することが非常に困難なことが多いのです。普段の生活ではほとんど感じる事のなかったことですが、観光国際都市として広島が発展するためにも、障がい者にやさしい街づくりにぜひ取り組んでほしいと願っています。



フラワーフェスティバル車いす介助で活動中の筆者(中央)